

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyokai.com

http://yuaiyokai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

一般財団法人日本友愛協会

第十二回通常理事会・第五回臨時評議員会開催

平成二十五年度事業計画・平成二十五年度予算承認

平成二十五年度三月二十二日（金）友愛サロンにおいて、第十二回通常理事会・第五回臨時評議員会議が開催され、平成二十五年度事業計画ならびに平成二十五年度予算が協議され、両案とも原案どおり可決された。

事業計画では、本年度の本協会創立六〇周年を記念して友愛山荘に「創立六〇周年記念小ホール」建設を行う旨が理事会において承認され、評議員会に報告された。

理事会では、公務のため欠席された鳩山邦夫理事長に代わり、鳩山由紀夫副理事長が議長を務め、続く評議員会での報告も行った。

評議員会では、鳩山由紀夫副理事長の理事会報告を受け、二十五年度事業計画・二十五年度予算が可決された。

平成二十五年度の友愛ドイツ歌曲コンクールは、創立六〇周年であることから、本選会の会場を東京文化会館小ホールで開催されることも、併せて承認された。（本文に理事会・評議員会の議事録抜粋を掲載）

一般財団法人日本友愛協会

三 出席数五名

平成二十四年度第十二回通常

鳩山由紀夫 副理事長

常理事会 議事録

川手正一郎 常務理事

日時：平成二十五年度三月

奥田吉郎 理事

二十二日（金）第十二回通

武田記念男 理事

常理事会：午前十時開会

木村正治 理事

午前十一時閉会

出席監事【総数二】出席

第五回臨時評議員会：午

数二名

前十一時開会 午後十二時

奥住壽監事

閉会

長田正太郎 監事

会場：友愛サロン

議長は、定款第46条の

進行：常務理事・事務局

定足数を満たすことから本

長 川手正一郎

理事会が成立することを宣

副理事長挨拶

言した。

副理事長 鳩山由紀夫

会議の目的事項

議長の選任

【協議事項】

定款第45条に基づき、

第一号議案平成二十五年度

鳩山由紀夫副理事長が議長

事業計画の件（定款第9条）

に就任した。

鳩山由紀夫副理事長よ

出席理事【総数六定足数

り、平成二十五年度事業計

出席理事【総数六】出

席者数五名

副理事長 鳩山由紀夫

常務理事 川手正一郎

理事 奥田吉郎

理事 武田記念男

理事 木村正治

出席監事【総数二】出席

者数二名

監事 奥住 壽

監事 長田正太郎

議長は、定款第26条の

定足数を満たすことから、

本評議員会が成立すること

を宣言した。

副理事長挨拶

副理事長 鳩山由紀夫

会議の目的事項

【協議事項】

第一号議案平成二十五

度事業計画の件

（定款第9条、評議員会

運営規程第11条第1項第

五号）

鳩山由紀夫副理事長よ

り、平成二十五年度事業計

画について説明がされた。

協議の結果、平成二十五

年度事業計画を全会一致で

承認決議した。

第二号議案平成二十五

度予算の件

（定款第9条、評議員会

運営規程第11条第1項第

5号）

鳩山由紀夫副理事長よ

り、平成二十五年度予算に

ついて説明がされた。

協議の結果、平成二十五

年度予算を全会一致で承認

決議した。

.....

この他、友愛創立六〇周

年記念大会実行委員会から

の報告もあり、当日に向け、

会場設営、記念品など準備

が滞り無く進んでいる旨報

告された。

友愛山荘に小ホール建設 多目的ホールとして活用

平成二十五年度四月二十九日が、日本友愛協会創立六〇周年にあたり、本年五月十九日（日）にはその記念大会が開催される。（註友愛青年同志会・日本友愛青年協会を経ての通算年数。）

これを記念して、軽井沢友愛山荘に、小ホールが建設される。軽井沢は、本財団創設者鳩山一郎先生が愛された地であり、友愛活動の出発点ともいえる。

現在本財団の事業として運営されている軽井沢友愛山荘は、食堂にはピアノもあり、本館内には会議室もあるが、会議室の定員が約二〇名と手狭なことから、ピアノを使つての音楽講習などは、食堂を利用して行

木漏れ日の中に落ち着いたたたずまい（小ホール完成予想図）

われていた。

これらのことを解消するためにも、講習会またはセミナーハウスとしても活用できる小ホールの完成は、友愛山荘の利用価値を高めることとなる。

小ホールは、入り口から内部まで、バリアフリーにも配慮され、どなたにもご利用いただけるよう各所に気配りが行き届いている。

完成予定は七月末。使用方法、料金等については、完成時までにはHP、友愛新聞等でお知らせ予定。

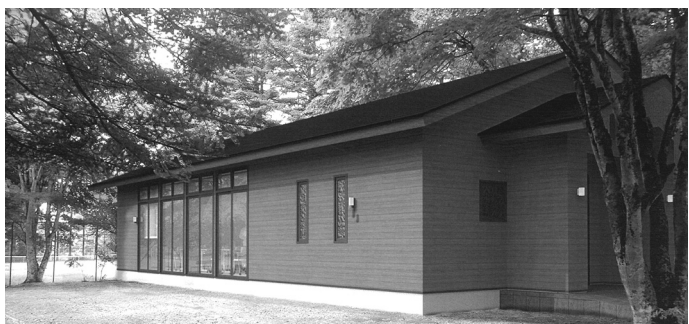
仕 様

木造平屋建て 約一三〇平米／収容人数 四十九名

友愛ホームページ

<http://yuaiyokai.com>

明るい日差しが入り込む室内。机椅子は可動式（完成予想図 室内）



友愛時評

▼為替が一ドル一〇〇円のラインを超え、株価も日経平均が一五〇〇〇円目前に迫っている。「アベノミクス」による資産バブルによって、本欄の読者の中にも恩恵を受けた人々が少なくないだろう。今からでも乗り遅れまいと、休眠投資家からの問い合わせが証券会社に殺到している。▼かくいう筆者も（もとよりお恥ずかしい程度の資産額ではあるが）利益が上がった。その大半はFX（外国為替証拠金取引）によるものである。ユーロ危機によって政治統合の蓄積すら一気に雲散霧消しそうなEUの情勢を目の当たりにして、改めて国際金融の重要性を認識したのがきっかけである。もともと、八割の投機家は損をして撤退すると言われる為替市場のことゆえ「授業料」は覚悟の上だったが、乱高下するユーロと超円高の相場は実に難しかった。▼黒田日銀による「異次元の金融緩和」は、それ以前のマネーゲームを一変させてしまった。主婦層も多く「ミセス・ワタナベ」と海外で俗称される日本の個人投資家の多くは、猛烈な円売りを仕掛けて円建てでの資産額を増やしたはずである。ただし、将来の高インフレが織り込まれた形の円安・株高による資産バブルに過ぎないのであれば、実質的にはプラスにならず一時の狂騒に終わるのである。▼ともあれ、内部留保を貯め込んでいる企業や銀行、資産家・富裕層の手に余剰資金が生じたことは間違いない。それを实体经济の復活と社会の活性化につなげ、如何にマネーゲームに無縁な人々にも恩恵をもたらすことができるのか――大胆な実験に踏み切った日本の状況を世界が注視している。（七ゲ）

日本友愛協会国際交流事業

オーストリア勤労青年連盟来日

OJAB

広島訪問 原爆戦没者慰霊碑に献花
日本文化、歴史に触れる充実の九日間
友好に貢献した故中嶋信行理事の墓参

一月十七日（木）から一月二十五日（金）までの九日間、オーストリア勤労青年連盟（OJAB）よりウィンマー最高執行責任者を始め四名の役員が友愛との交流のため日本を訪れた。友愛創立六〇周年にあたる今年、同時にオーストリア勤労青年連盟との友好姉妹団体関係が五十年となることをふまえ、祝辞を伝え、今後の友好関係を深めるための来日である。加えて、オーストリア勤労青年連盟との友好確立に尽力した、故中嶋信行理事の墓参も訪日の目的である。一行は東京、京都、広島、八女、大阪と精力的に訪問。広島では、原爆資料館を視察。前田耕一郎館長より説明を受けた。また平和記念公園で、花輪を供え、平和への祈りを捧げた。広島市庁舎を訪問、佐々木敦朗副市長と面談、平和に対する取り組みについて意見交換した。八女では故中嶋理事の墓参と、自宅を訪問し、てる子夫人と涙で再会、つもる話に時を忘れて過ごした。



OJAB一行を迎えた歓迎昼食会

18日 ホテルグランドパレスに於いて、歓迎会が催された。日本の国旗、オーストリアの国旗と共に、友愛旗、オーストリア勤労青年連盟旗が中央に飾られたテーブルを囲み、友好のひとときを過ごした。50年余に及ぶOJABとの姉妹団体関係は、一層の絆を強めた。
写真左から：通訳ミヒエラさん、プロメガーゼネラルマネージャー、長田正太郎監事、武田記念男理事、藤井玲南さん、奥田吉郎理事、川手正一郎常務理事、ウィンマー最高執行責任者、鳩山邦夫理事長、ツィムブルグ在日オーストリア大使、サイヤー労使協議会副議長、木村正治理事、フィッシャー理事、（事務局：羽中田・井之輪）



ウィンマー専務理事は、友愛との歴史に資料を持参して喜びを表現



挨拶する鳩山邦夫理事長 永年に亘る友好を確認、感謝の意を



鳩山会館を訪問 それぞれの資料室では、熱心に閲覧、質問も



ベルンハルド・ツィムブルグ在日オーストリア大使も出席された



国会議事堂、迎賓会、スカイツリーなど東京を視察。大きな提灯、門の仁王像に、日本文化は素晴らしいと興味を示す



友愛事務局訪問。友愛の旗のもと全員で記念撮影



早朝、早起きして築地市場を視察。並んでいるマグロに感動！



金閣寺は、最も訪れたい場所であった。小雨が静寂さを演出した



京都では兼ねてより希望していた茶道を体験。なかなかの腕前



平和資料館で、前田館長より詳しい説明を受けた。熱心に視察



平和記念公園にて。真摯な面持ちでOJAB旗と花輪を供えた

十九日（土）二十日（日）は是非にとの希望から、築地市場を視察。その後国会議事堂、スカイツリーなど各地を訪れ、日本文化、東京に感動の連続だった。
鳩山邦夫理事長も、前回来日の折りの写真を見ながら、友好関係の確認に話が弾んだ。歓迎会終了後、一行は鳩山会館を訪問、長田正太郎事務局長より、建物の解説を受け、熱心に資料を閲覧した。東京都内視察

新幹線は経験があるが、最新の列車に乗りたかったと、先頭車両で記念撮影。京都では竜安寺に多大な興味を示し、開門時間まで心おきなく庭園を鑑賞した。翌朝、まだ人気のない金閣寺を訪れ「素晴らしい！」の連発。小糠雨が美しさを際立てていた。平和への取り組み
広島市庁舎を訪問。原爆資料館を視察した後、佐々木副市長



最後の訪問地大阪では、シンボルの大阪城へ。木村正治理事が案内



平和への取り組みを意見交換

ウィンマー専務理事、最高執行責任者に就任
一月十七日（木）早朝、一行は成田空港に到着した。今回は、永年日本友愛協会との関係に、直接窓口となって対応してくださったウィンマー専務理事が、最高執行責任者に就任したことから、今後の双方の関係発展も視野に入れ、三人の役員を伴っての来日となった。
歓迎昼食会



故中嶋理事の菩提寺に参拝。てる子夫人とともに本堂でお参りした



中嶋家にて 写真を広げ、思い出話に、涙と笑いで時が過ぎた

長と平和についての意見交換。第二次世界大戦を経験している国同志の、平和が語られた。原爆戦没者慰霊碑に花輪を供え、深い祈りを捧げた。広島では親交の深い島崎評議員も参加、通訳を担当した。故中嶋理事の家で
羽犬塚の駅まで迎えに来てくださった、てる子夫人と再会。お互いの健康を祝し抱擁が続いた。故中嶋理事の菩提最後の訪問地大阪では、シンボルの大阪城へ。木村正治理事が案内

寺で墓参を済ませ、中嶋家を訪問。持参の写真を広げ、思い出話に時を忘れて懐かしんだ。別れを惜しみながら再会を約して中嶋家を辞した。充実の九日間
東京から九州八女まで、文化に触れ、平和を語り、旧友との再会と充実の九日間を過ごした一行は、一月二十五日（金）関西空港より、帰国の途に着いた。

友愛植林訪中

福建省アモイ市・湖北省孝感市

第二十二次・第二十三次訪中団派遣

十年後の緑の森・ダム周辺の治水を目指して

平成二十四年度日中緑化交流基金による植林活動は、平成二十五年三月五日〜八日に第二十二次訪中（福建省アモイ市同安区）、三月二十一日〜二十五日に第二十三次訪中（湖北省孝感市）が実施された。

第二十二次、第二十三次とも川手正一郎常務理事を団長とする訪中団が生まれ、現地を訪問、植樹祭、交流行事など、滞り無く日程を終了し帰国した。

第二十二次アモイ市は、第三期事業の実施で、五年に亘ったアモイ市での植林活動の最後となった。第二十三次孝感市は、第二期事業の実施であるが、昨年植樹した木々が干ばつのため活着率が悪く、樹種を変更しての植樹となった。

なお、平成二十四年度植林事業の臨汾市および錦州市への訪中は、平成二十五年六月に実施を予定している。

福建省アモイ市同安区

「第三期日中青年アモイ市同安区生態緑化林事業」

アモイ市に於ける最後の事業となる今回は、郊外の山間部に、保水、治水を目的に実施された。

植樹祭当日は、この季節においては、近年にない程の好天に恵まれた。眩しい日差しの溢れるなか、地元学生、関係者の集うなか式典は開催された。

立派な記念碑（写真左）の除幕式に、大きな拍手が

現地に建立された記念碑。大きな天然石に友愛の名が刻まれた



路肩に植樹する参加の青年達。眼下の小さなダムのために



崖の上で、足下を確保しながらの植樹。若い声が弾んでいる

わいた。その後各人が担当している箇所に苗を植え付けた。ボランティアで集まった学生達は、崖崩れを防ぐため、路肩、崖の上など足下を確保しながら丁寧に植え付けを行った。

夕刻、アモイ市青年連合

挨拶する川手正一郎団長。木々の生育は、日中の友好を育てますと



日差しの中、地元のボランティア青年達が集合



会の主席を始め関係者が参加して歓迎食事が開かれた。席上、第一回植林訪中時に日本友愛協会が外務省協力事業として開催した「けん玉ペインティング及び競技コンテスト」以来けん玉に興味を持ち、練習を重ねて来た王さんが、その腕前を披露した。けん玉を通して、笑い声あり拍手ありと、笑顔に溢れた和やかな歓迎会となった。

植林事業を通じて行われる文化交流は、着実に成果を上げていることを実感した瞬間だった。

参加者・川手正一郎／日本友愛協会常務理事、福田八州雄／日本友愛協会評議員、松本直也／在中国日本大使館・一等書記官（現地参加）、川手祥右／東京工芸大学工学部建築学科在学中、羽中田元美／事務局

植林面積・約六十一ヘクタール 植樹数・約十萬本 樹種・楓香・香樟など

第22次植林訪中湖北省孝感市



第21次植林訪中福建省アモイ市

湖北省孝感市

「第二期日中青年湖北省孝感市生態緑化プロジェクト」

孝感市に於ける第二期目の事業であるが、第一期に植樹した水杉等は、昨年七月の大干ばつで、ほとんどが枯れてしまった。水分の多い地域に適しているということで選んだ水杉であったが、未曾有の干ばつが起り、活着率は低い。

孝感市は、水害と干ばつの両方が起きる可能性のある、過酷な自然環境の地であるといえる。

それに対応するため、今回は樹種をポプラに変え、補植の意味も含めて行われたプロジェクトである。

孝感市の関係者が迎える中、植林現場に到着。見渡す限りの広い土地に、ポプラの苗が植えられている。二メートル程度の細い苗だが、もしこの苗がなかったら、この地は何もない荒地のままなのだ。

ポプラの苗は、元気に根付いているようにみられ、数年後、数十年後にこの地が緑の林となるのが楽しみである。

荒涼とした地に植えられた苗を、十年の年月が緑の森に仕上げていく様子は、友愛の植林事業十数年の歴史のなかで確信している。自然環境の厳しい孝感市ではあるが、地元の方々の思いと努力で、きっと緑の森を創り上げてくれることだろう。孝感市は、第三期計画もあり、今後も植林地の活着状況を見守ってゆきたいと思う。太陽の恵みを祈る思いである。

参加者・川手正一郎／日本友愛協会常務理事、福田八州雄／日本友愛協会評議員、川手祥右／東京工芸大学工学部建築学科在学中、井之輪 豪／事務局

植林面積・四十五ヘクタール 植樹数・約六萬本 樹種・ポプラ



ポプラの苗を共同で植える現地ボランティアの青年たち



植樹祭式典会場 政府の肅正方針を受けてか、現地の状況が質素に



孝感市青年連合会 湖北省青年連合会 全国中華青年連合会などこの植林に期待を寄せる関係各位が集まった。前回の活着率の低さは、関係各位にとっても手痛いできごとだ。今回に寄せる期待は大きい

孝感市 迎賓館前で記念撮影

植樹の終わった現場。十年後には、緑溢れる林が出現する



